

■■■■無断複製・転載禁止■■■■

日本杭抜き協会を設立 既存杭の残存問題解決へ

大 教授
工 教
浦 准
芝 稲

芝浦工業大学・工学部土木工学科の稲積真哉准教授は28日、産学官で構成する「一般社団法人日本杭抜き協会」(東京・目黒区、稲積真哉代表理事)を設立したことを明らかにした。既存杭、そして既存杭の引抜きを学術的に取り扱う法人の設置は、国内初だと言っている。構造物の解体撤去後に、地盤に埋設されたまま残る

既存杭に起因する諸問題の解決に貢献していく。高度経済成長期に建設された建築物やトンネル、橋などの構造物の老朽化が今後、集中的に進む中、長寿命化対応が進む一方、その解体需要も高まることが予測される。

その際、現在の撤去工事で行っている既存杭引抜き工には、不完全な引抜き

きによる杭の地中残置などによって、施工中・施工後ともに、さまざまな地盤環境問題が顕在化。地中の産業廃棄物となつて、地盤環境の悪化をもたらす問題を引き起こし、土地売却引等では隠れた瑕疵として問題に発展するケースもある。

日本杭抜き協会は、こうした問題に着目し、引抜き工の技術革新に加え、講習や検定制度の構築も進めるとともに、この取り組みの重要性を学術的に明らかにして社会に発信していく。